

## ダニエル書4章34-35節 「政治に対する証し」

### 1A 政治にある神の国

1B 個人から世界への「イエスは主」

2B 王の心に働くみこころ

### 2A 地道な証し

1B 異教の中の決心

2B 神の憐れみ

3B 賜物

4B 誘惑の時

### 3A 為政者からの信頼

1B 聖なる霊

2B 王への敬い

3B 主ご自身の取り扱い

## 本文

ダニエル書 4 章 34-35 節を読みます。「ダニ 4:34-35 **その期間が終わったとき、私ネブカドネツアルは目を上げて天を見た。すると私に理性が戻ってきた。私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は代々限りなく続く。地に住むものはみな、無きものと見なされる。この方は、天の軍勢にも、地に住むものにも、みこころのままに報いる。御手を差し押さえて、「あなたは何をされるのか」と言う者もない。」**

今、読んだところは、バビロンの王ネブカドネツアルが、天の神、イスラエルの神をほめたたえているところです。ここで驚くべきことは、第一に、彼は世界の超大国の主権者であることです。あらゆる権力と主権、力が与えられている者が、自分の上に神がおられることを認め、自分自身がこの方によって支配されて、へりくだらなければいけないことを悟っているのです。第二に、彼は異教の王だということです。バビロンの神々がいます。そして、当時は、国を代表する神々が他の国を征服するならば、その国の神々が、相手の神々を征服したと捉えます。それにもかかわらず、彼は主を神としてあがめています。

要は、ネブカドネツアルは回心したのです。しかし、この回心が一夜にして起こったのでは、決してありません。彼がこの告白をしたのは、その治世の後期であり、長年、忍耐強くダニエルやその友人が証し続けたからです。

## 1A 政治にある神の国

### 1B 個人から世界への「イエスは主」

ところで、信仰者にとって政治は、どれだけ関係があるでしょうか？政治と聞くと、ニュースに出て来る、永田町で起こっていることがあるでしょう。自分がキリスト者になっているのは、自分の人生で、生活でいろいろな課題があり、そこでイエス様に会っているわけで、政治とは無縁のところだと思われるかもしれませんが、けれども、その自分の人生でさえが、政治があるのです。つまり、だれが権力を持っているのか？ということです。自分がイエスを主として信じて、この方にひれ伏すのは、まさにイエスが主権者であり、王であることを認めていることであり、それは政治なのです。

御国という言葉は、正確には王国です。神が王であり、治めておられるのが御国です。主が来られる時、すべての人が主にひれ伏します。これが政治でなくしてなんでしょう？神の救いは、個々人のたましいを救うところから始まりますが、生活の領域、社会の領域、そして世界すべての領域に及び、主イエスが再び来られる時に、すべてにおいて回復するのです。ですから、政治の事柄について、気になるはずでず。

### 2B 王の心に働くみこころ

そして、主はしばしば、王の心に働いて、ご自分のみこころを行われます。王は、自分の思うままに事を行っているように見えますが、自分の意思でとやかくできない領域があります。そこに、神ご自身が働いておられます。「箴 21:1 王の心は、【主】の手の中にあって水の流れのよう。主はみこころのままに、その向きを変えられる。」その、どうにもできない部分には、主のみこころが働いているのです。

## 2A 地道な証し

そういうことで、ダニエルの生涯を思い出しましょう。

### 1B 異教の中の決心

ダニエルと友人三人は、ネブカドネツアルが王となって初めの時にバビロンに捕え移されました。そして、彼らは王宮に仕えるために、バビロンの文学の教育を受け、名前もバビロンの神にちなんだものに変えられました。そうした中で、彼らは王に仕えながら、自分たちの神にも仕える決心をしていました。「1:8 ダニエルは、王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定めた。そして、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願うことにした。」

ここから分かることは、私たちにとって自分の置かれている状況が好ましくないことが多くあるということです。世の中にいなければいけない、ということです。しかし、世の中にいることさえ、主のみこころがあり、許しがあって、そうなっているということです。それから、主にあって良心が汚されることがあれば、良心をきよく保つために、決断をしなければいけません。(ダニエルが、王のごち

そうやぶどう酒で身を汚すまいとしていたのは、そのごちそうの肉が、偶像に供えられていたものだと考えられます。)

## 2B 神の憐れみ

この決断は、王に反逆していることでもあり、死を覚悟しなければならないものです。しかし、主は憐れんでくださいます。「1:9 神は、ダニエルが宦官の長の前に恵みとあわれみを受けられるようにされた。」王の前では、自分は一切の努力が通用しません。ただ、神の憐れみによって事が進んでいくのです。2章においても、ダニエルと三人の友人は、怒り狂っていた王が知者たちを皆殺しにしようとした時に、天の神に憐れみをこいて、祈りました。政治において、どうにもならない状況が、次々と起こります。もちろん、政治でなくても同じことが起こります、その時に、主の憐れみがすべてなのです。

## 3B 賜物

その中で、主は豊かに賜物を授けました。ご存じのように、ダニエルは野菜だけの食事をお願いして、十日間の試しがありましたが、他の少年たちよりもふくよかでした。そして公務を行っていく時の知恵については驚くべき能力が与えられます。「1:20 王は、知恵と悟りに関わる事柄を彼らに尋ねたが、彼らがそのすべてにおいて、国中のどんな呪法師、呪文師よりも十倍もまさっていることが明らかになった。」主は、証しを立てる人々に、力を与えてくださいます。

## 4B 誘惑の時

そして、2章は、有名な、人の像の夢の話しになります。ここで大事なのは、天の神が証されたことです。王にとって、これから、自分の王国がどうなっていくのか、わからないとき、智者たちに訊ねても 答えられないのです。彼らの口から告白があります。「2:11 王がお求めになっていることは、難しいことです。肉なる者と住まいをとともにされない神々以外に、それを王の前に示すことができる者はおりません。」そして、夢を告げ、またその解き明かしをします。

そのことで、王はダニエルの神を称賛します。ダニエルをバビロンの知者たちを長官にします。その時にダニエルは仲間の三人を行政官にするように頼みます。

そして、試練が来ます。王の治世の中期のことです。金の像を王が造り、すべての行政官にその前でひれ伏すようにさせたのです。自分の権力を世界に知らしめるためです。先に、王の心に御心が流れると話しましたが、自分が何者かと思いががり、自分を神のように見なす時があります。獣のようになるのです。

しかし、試練の時、神の救いが証されます。自分を神のようにみなす愚かさを、まことの神を信じる者たちによって明らかにされます。三人は、拝むことを拒み、燃える火の炉の中から救い出

されました。そして、王は称賛します。「3:28 ほむべきかな、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神。神は御使いを送って、このしもべたちを救い出された。王の命令に背いて、自分たちのからだを差し出しても神に信頼し、自分たちの神のほかはどんな神にも仕えず、また拝まないこの者たちを。」彼らが王の命令に背いてでも自分の神に信頼したことをほめたたえたのです。忤度したり妥協しても、証にならないのです。むしろ、真っ直ぐに信じていることが、証になります。

### 3A 為政者からの信頼

そして、4 章です。ネブカドネツアルの治世の後期になります。王とダニエルとの信頼関係が築かれているのを見ることができます。

#### 1B 聖なる霊

ネブカドネツアルは再び夢をみます。大きな木が一気に切り倒されて、根株に、すべてにおいて根株になり、青銅の鎖につながれるというものです。

そこで王がダニエルを信頼する言葉がすごいです。「4:18 私の国の知者たちはだれも、その意味を私に告げることができない。しかし、おまえにはできる。おまえには、聖なる神の霊があるからだ。」聖なる神の霊があると言ったのです。私たちは、聖なることを求めたら、世の人から疎まれる、嫌がられると思ってしまう。しかし、私たちは地の塩であり、かえって聖であることが、信頼されるのです。

#### 2B 王への敬い

そして、ダニエルも王に深い尊敬心を抱いています。この夢の意味がわかって、驚きすくみました。そして言います。「4:19 わが主よ、どうか、この夢があなたを憎む者たちに当てはまり、その意味があなたの敵に当てはまりますように。」ネブカドネツアルは、横暴な王です。しかし、神が立てられた人として、敬っているのです。相手を敬わずして、どうして証を立てることができるでしょうか？

#### 3B 主ご自身の取り扱い

そして、主ご自身が王を取り扱ったのです。夢のとおり、彼は、獣のようになり、草をはみ、七つの時を過ごしました。そして、理性が戻って、開口一番、主をほめたたえたのです。こんなに大変な目にあったのに神を呪うのではなく、ほめたたえたのです。彼は、へりくだったのです。

なので、丹念に証してください。相手を敬い、神が聖なる方であることを、示し続けてください。非常に世的で、ここに神がいなと思うところでも、ともにおられることを信じてください。そして、政治においても、神の主権によって、動いているところだと知ってください。